

第127回 日本眼科学会総会 ランチョンセミナー LS18

網脈絡膜診断

平面と断面を縦横無尽に

2023.4.7
(FRI)

12:45-13:45

第8会場 東京国際フォーラム
1F ホールD1

座長のことば



座長兼演者

三田村 佳典 先生

徳島大学大学院医歯薬学研究部
眼科学分野 教授

OCTにおける脈絡膜所見

眼底カメラ、OCT などはその有用性から日々研究開発され、時代と共に常にアップデートを続けております。みなさまも眼底カメラを使って小瞳孔の患者様で撮影が難しかった経験がおりないのでしょうか？小瞳孔の患者様でも失敗が少なく撮影でき、高画質な画像を撮影できると、将来的にAI医療アプリケーションでの学習データとして求められる高画質なデータに該当する可能性があります。そこで新しい無散瞳眼底カメラについて自験例も踏まえ、田淵先生にご講演いただきます。

また、OCTは画像診断技術の進歩に伴い、網脈絡膜疾患へのアプローチが急速に進展してきました。私、三田村より、脈絡膜 定量解析で得られた結果を用いて、網膜疾患の脈絡膜所見を述べさせていただきます。最後に伊藤先生から、SS-OCT Triton で得られた OCT 像を用いて、自験例を踏まえながら網膜疾患についてご講演いただきます。

本セミナーがご参加の先生方の明日からの日常診療の一助となれば幸いです。多くの先生方のご参加をお待ちしております。



田淵 仁志 先生

広島大学大学院 医系科学研究科
寄附講座 教授

無散瞳眼底カメラ (NW500)
というブレイクスルー



伊藤 逸毅 先生

藤田医科大学 眼科学教室 教授

Triton OCT を用いた
網脈絡膜診断の決め手